

令和7年度（2025年度）授業等研究セミナー（道央・道南ブロック 情報）研究授業資料

単元「情報デザイン」の計画

ア 単元目標

- (ア) 目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通じ、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、メディアの特性やコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解する。
- (イ) 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を身に付け、コンテンツを表現し、評価し改善する。
- (ウ) 情報と情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを行おうとする態度、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 情報デザインの考え方を理解し方法を身に付けている。 - コンテンツ制作の一連の過程や、受け手の多様性に配慮する方法を理解している。	- 情報デザインの考え方や方法を用いて、目的や受け手の状況に応じて、効果的に情報を伝えるための表現ができる。 - コンテンツの設計、制作、実行、評価、改善ができる。	- コミュニケーションの目的や伝える情報を明確にしようと粘り強く取り組もうとしている。 - 情報デザインの考え方や方法に基づき、改善点を見つけ工夫して取り組もうとしている。 - 各授業及び一連の活動を振り返り、相互評価や生成AIの評価を参考にして、自らの学習を調整しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（時間）

次 【時間】 探究の過程	ねらい、学習活動等 (学習活動の概要、主発問、指導上の留意点)	評価の観点		
		知	思	態
1次 【1時間】 課題の設定	○情報デザインの概要 - 情報デザインの役割や目的について問いを立て、仮説を考え、共有する。 - ピクトグラムなどを例に、目的や受け手の状況に応じた情報表現の工夫を考える。 - 年齢、言語や文化及び障害の有無にかかわらず伝わるデザインの事例から、多様性への配慮の重要性を理解する。 - 情報を伝える際の抽象化、可視化、構造化などの考え方を、身近な事例を通して理解する。	○		
2次 【1時間】 情報の収集	○社会の中での情報デザインの分析と探究 - 公共空間や日常生活にある情報デザインを観察・分析し、アクセシビリティやユーザビリティの観点から効果を考察する。 - シグニファイアによって人の行動がどのように変化するか、事例を通して検証する。 - その結果をもとに、情報デザインの工夫が人の行動や社会の利便性に与える影響について理解する。	○		
3次 【1時間】 整理・分類	○コンテンツの企画と制作 - 目的・受け手・利用場面を明確にし、伝える情報を整理する。 - 思考ツールを活用して、コンテンツ制作の一連の過程を可視化する。		○	

	・抽象化・可視化・構造化の観点を取り入れながら、複数案を検討し、ピクトグラム制作に取り組む。			
4 次 【1 時間】 まとめ・表現	○コンテンツの評価と改善 ・制作したピクトグラムについて、目的、受け手、利用場面を明確にしながら、グループ内で話し合い相互評価を行う。 ・「抽象化・可視化・構造化」「アクセシビリティ・ユーザビリティ」などの観点を基準にして評価する。 ・生成AIにピクトグラムを評価させ、グループ内の評価と照らし合わせて妥当性を確認する。 ・相互評価と生成AIの評価を基に改善を加え、情報伝達やコミュニケーションの観点と関連付けて考察する。 ・コンテンツ制作の全過程を振り返り、情報デザインの考え方や方法に基づいた学習活動であったかを振り返り、新たな課題の発見につなげる。		○	○

エ 学習指導案（4時間目／4時間中）

教科（科目）		情報（情報Ⅰ）		教科担任	前田健太郎・藤島慶太
使用教科書		情報Ⅰ Step Forward!（東京書籍）		学年・組	1年8組
授業日時		10月3日（金）3校時		使用教室	コンピュータ室
単元名		情報デザイン			
指導計画		2－2－1 情報デザインの概要 2－2－2 社会の中での情報デザインの分析と探究 2－2－3 コンテンツの企画と制作 2－2－4 コンテンツの評価と改善（本時：65分授業）			
本時の目標		グループ内で意見交換を行うことで、制作したピクトグラムを評価し改善する。また、生成AIの助言も参考にして、ピクトグラムを修正する一連の学習過程を振り返り、新たな課題の発見につなげる。			
過程	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	学習形態	【評価の観点】 評価方法
導入	5分	前時までに制作したピクトグラムについて、相互評価や生成AIの評価を行い、改善点を検討し、ピクトグラムの修正を行う。	本時の目標と学習内容を確認させる。 提出するピクトグラムと振り返りの内容が評価の対象となることを生徒に確認させる。	一斉	
展開1	15分	各自ピクトグラムを表示し、4人程度のグループ内で相互評価を行う。	評価者はピクトグラムのよいところ、改善が必要なところを制作者に伝える。また、よいところは自分のピクトグラムの修正に生かす工夫を考えさせる。	協働	
展開2	10分	作成したピクトグラムを生成AIに評価させる。	生成AIの回答を参考に、改善が必要かどうかを考えさせる。	個別	
展開2	20分	相互評価と生成AIの評価で得られた助言を参考に、ピクトグラムを修正して完成させ、クラウドに保存する。	評価や助言を基に修正する過程を通して、新たな課題を発見することの重要性を伝える。	個別	【思考・判断・表現】 提出したピクトグラム
まとめ	15分	クラウドサービスを活用して配布されたフォームに振り返りを入力する。	振り返りのコメントは具体的に入力するよう指示する。授業時間内に入力が完了しない場合は、次回の授業までに入力するよう指示する。	個別	【主体的に学習に取り組む態度】 提出した振り返りのフォーム

振り返りのフォームのコメントの評価基準

粘り強く取組を行おうとする側面		自ら学習を調整しようとする側面	
a	修正しようとしたデザインの内容を、ピクトグラムで表現するために工夫した点を具体的に説明し、修正内容を明確に述べている。	a	学習の中で難しかったことを明確にし、それに対してどのように工夫や調整を行ったかを具体的に述べ、ピクトグラムの表現に生かしている。
b	修正しようとしたデザインの内容を、ピクトグラムで表現するために工夫し、その修正内容について述べている。	b	学習の中で難しかったことを挙げ、それに取り組もうとしたことを述べている。
c	修正しようとしたデザインの内容について、工夫や修正内容を述べていない。	c	学習の中で難しかったことや、その対応について述べていない。